

Letters



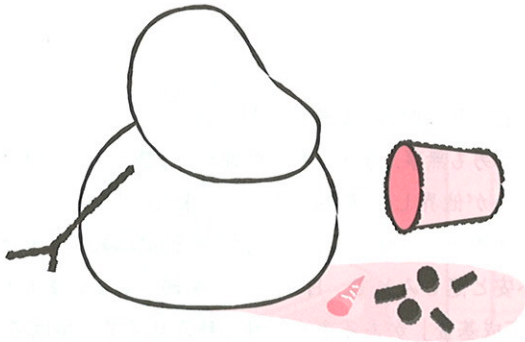
レターズ / 会員の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

福岡県久留米市

K・Yさん

拝啓、交通遺児育成基金様、長い間、有難うございました。なにかと精神的にも父子ともども励みになったように思います。

お蔭様で息子も鹿児島大に進学しており、友人も多く、元気にやっております。本当にありがとうございました。



佐賀県神崎市

S・Yさん

前略（お礼が遅くなって申し訳ありません）、温暖化の影響なのか？！暑い夏に続き、秋も夏日が続く今日この頃、19歳になった息子は夏休みの帰省を早々に切り上げ、自動車学校に通うために大学の寮にもどりました。もう路上中とか、同車できる日が楽しみのような恐ろしいような…。入校費は奨学金や入学祝い金等で工面したようです。10年近く経済面で支えて頂き、本当に有難うございました。

息子の寮に車で訪ねた時、20年ぶりぐらいにスピード違反で罰金を払い、先日は駐車場でポールに当てたりと、危機一髪です。初心にもどり、気を引きしめ、交通ルールを守って過ごしたいと思います。

静岡県駿東郡

C・Yさん

不妊治療を続け、やっと授かった一人娘が19歳となり、基金の給付完了を迎えました。本当に長い間お世話になり、ありがとうございました。

主人が亡くなった時、妊娠3カ月。涙するひまなく、子育てにおわれ、気がついたらもう19年。娘は希望通り国立大学に入り、毎日楽しそうに生活しています。「月日のたつのは早い」とつくづく感じる今日この頃です。父親のいない寂しさは、どうにもしてあげられませんが、基金のお陰で、経済的に苦勞する事もなく、生活できる事を感謝しております。

最後になりましたが、会員の皆様をはじめ、いろいろお世話下さいました基金の皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

兵庫県神戸市

M・Fさん

前略、この度は図書カードと共にお知らせいただき、もうそのような時期になったのかと改めて月日の経つ早さを感じました。

感想文など、とんでもありません。ただ、感謝の一言につきます。子供がそれぞれ小1と年中の時に突然、まっ黒な海に放り出され、途方に暮れ、考えてはならない事も、ふと頭の中を過ぎる経験を何度かいたしました。

交通遺児育成基金様には本当にお世話になりました。息子は、今春、なんとか大学生になり、和歌山で下宿生活をし、良い苦勞をしております。図書カードも早速送ってやりました。喜んでおります。本当にありがとうございます。

そして、もう一人、下の子がお世話になっておりますが、これからもよろしく願いいたします。かしこ

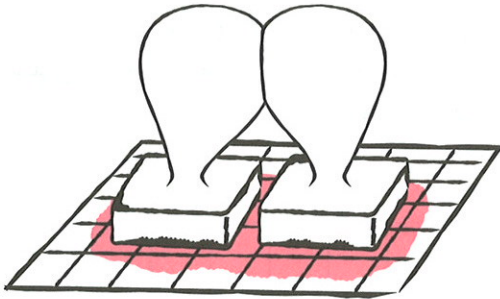
神奈川県川崎市

K・Tさん

拝啓、思い出して…。

当時まだお腹にいた子でした。上の子は一歳十一カ月。突然の事故で…昭和63年2月に夫が亡くなり、お腹の子は7カ月、同じ年の6月に出産しました。あまりにも信じられない出来事でした…。

沢山の人達に助けて頂きながら、2人の子育てでした。交通遺児育成基金を知り、すぐに加入しました。子供が成長する度に助けて頂いて来ました。19歳となり、今、歯科衛生士学校で学んでいます。あつという間であった様にも感じる今日この頃です。交通事故が本当に無くなってほしいですが、車社会の現代、増えるばかりですが…この様な制度があり感謝しております。



石川県河北郡

Y・Mさん

前略、5才の時に父を亡くしましたが、多くの心ある人に支えられて、しっかり成長しました。本人は将来の自立に向けての準備のための学業途上です。

先々、いろんなことがあると思いますが、親としては見守るのみです。目標を持って進もうとしているので、何はともあれ、ひと安心しています。

貴基金にも大変お世話になりました。ありがとうございました。あと2人残っていますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。かしこ

神奈川県横浜市

T・Iさん

拝啓、今まで長い間どうもありがとうございました。経済的にも本当に助かりました。現在、大学に進学出来る事もでき、小さい頃から好きな野球も続ける事も出来ました。長い間お世話になり感謝しております。これからまだ大変ですが、育成基金があった事により、現在まで至る事も出来ました。ありがとうございましたと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、家族一同頑張っていきたいと思っております。

岡山県津山市

H・Fさん

長い間お世話になりました！！

二男も無事、製紙会社の社員として働いております。主人が他界して今年で12年、来月には13回忌を迎えます。当時の事を思い出すと子供二人をかかえ、不安と悲しみとで、日々の生活を過ごしていました。「育成基金」がある事を知り、積み立てて（預けて）、安心して将来子供達の為に使えるお金として残してやれます。私達のような弱者には、これからはなくなる事なく、続けて行ってほしいと心より願います。息子も日々、感謝しながら親元から離れてがんばっています。

